



私の仕えるお方は  
良家のご令嬢だ  
いつも大人びた佇まいで  
美しいお方

だけどその寝顔は  
無防備であどけない…



お嬢様

…お嬢様?



お疲れなのだろうか

よく寝られていて  
起きる気配がない…

う…ん



こんな格好では  
風邪をひいてしまいますよ？

ふっ  
ふっ

あっ

お嬢様の胸……



少し小さくて  
柔らかくて  
可愛い……

びくっ

じゃなくて！  
私は何を……

でも

つい触れたく  
なってしまう……

ん……  
あっ

いけないのに……  
温かい感触と

お嬢様の甘い  
お声……

ねえ

こんなことして……

そんなに私のことが  
好きなの……？

あまりの驚きに  
頭が真っ白だ……！

お嬢様……！  
これは……

ほら

いけないメイドさん……  
そんなに触りたいなら  
仕方ないなあ……

でもお仕置きとして  
私が満足するまで  
やめちゃダメ……

これは……

もしかして  
初めから起きて  
いらっしやった……？

しゅわ……

ちゅーっ

んあ……

お嬢様……

こんなのじゃダメ

全然  
足りないよ……

はい……  
お嬢様

私も一緒です……  
お嬢様に満足  
いただけるまで

もっと……  
いつまでも……

それでは…  
遠慮は致しません…

うん

こうして私を求めて  
くださるお嬢様の

全てが愛おしいです

ん…っ

ちゅ。

ぴゅん

やっ…

あ…

はぁ…

んっ

ちゅる…



お嬢様の感じている姿  
お声が可愛すぎて

んっ...  
それ...  
好き...

私もです...

あっ

びくっ

ん...  
キスしながらするの

好き...

もっ...

ん...

もう止められる気が  
しないです...











